

はくぶつかんネット

第79号

令和6年7月～10月号
発行：宜野湾市立博物館

慰霊の日写真パネル展

無事終了いたしました！

沖縄戦の中の宜野湾



豪雨と雷が続いた梅雨も終わり、厳しい暑さが続いております、今日この頃、皆さまはいかがお過ごしでしょうか？

当博物館では、毎年慰霊の日の時期に合わせて、戦争の記憶を次世代へ継承することを目的に、写真パネル展を開催しています。今年度は、沖縄の戦後引き揚げについて取り上げました。戦前に県外・海外に疎開していた人びとや、海外で移民生活を送っていた人びとの終戦後の帰還ルートや、沖縄での到着時の様子などを紹介しました。また、関連事業として6月22日（土）には、沖縄「平和の礎」



最初の引揚者が※ブラウンビーチに接近
（沖縄市総務課市史編集担当）
※現在の中城村久場崎の海

名前を読み上げる集いに参加し、1,300名の戦没者名を、10名の方たちが読み上げました。ご来館いただいた皆さまからは「戦争の悲惨さを感じました。二度とこのようなことを繰り返してならないと思います。」

「子供たちに改めて戦争について考える機会を与えられて良かったです。」「戦前から戦後まで詳しく分かる展示でした。」「沖縄戦が遠くない記憶だということ、あらためて思いました。」など多くの感想をいただきました。6月12日（水）から7月7日（日）までの開催期間（23日）で、市内外から1,070名のご来場がありました。たくさんの方々にご来館いただきまして、誠にありがとうございました！！



お金で世界を感じ展

～翁長良明氏古銭収集 70年間のあゆみ～

ご存知ではない方が多いかもしれませんが、実は今年度は…当館が開館して 25 年目となる記念すべき年です！その記念の企画展第一弾として、平成 16 年度の開館5周年の記念に行われた「宜野湾市立博物館 開館5周年 世界のお金展 ～世界最古の貨幣から現在まで～」を行った際に、お世話になった古美術コレクターの翁長良明氏が古銭収集 70 年ということもあり、再度協力していただき、翁長氏が少年期から集めてきた約 200 カ国の世界の紙幣や貨幣、数百年前の古銭など様々なお金（その数、数万枚）の一部を展示・紹介しました。

今回の企画展は「子どもたちが喜び展示」をテーマに、様々な動物が描かれている紙幣や貨幣を紹介するコーナーや歴代琉球国王の時代に流通した貨幣の紹介、宜野湾市にまつわる偉人に関する年代の貨幣の紹介、触れる展示などを行い、更には土日限定で翁長氏のプチギャラリートークも繰り広げられ、子どもも大人も楽しめる内容となりました。

期間中、2,255 名の観覧者が訪れ、記念すべき 1,000 人目と 2,000 人目の来館者には、翁長氏のご厚意により、記念品のプレゼントがありました♪また、来館された方からは「世界一周した気分で切手・コイン・時代を感じる事ができました。」「人生で使う金だけでなく、何人もの人を支えてきた金を見ることができてとてもおもしろかった。」「とにかく「すごい」の一言です。個人で、こんなに収集できるのに、感服します。」といった感想があり、世界の広さやロマン、コツコツとモノを集める事の凄さなどを感じていただけたと思います。

更に、またまた翁長氏のご厚意により、「素敵なプレゼントが当たる☆」として、好きなお金（3 点）と感想を用紙に書いて応募していただき、総数 235 名の中から4名の方へ、銀貨のプレゼントも企画展終了後の抽選にて決定し、贈呈いたしました。

今回ご協力くださった翁長氏に、心より感謝申し上げますとともに、梅雨空の中、ご観覧いただいた皆さまにもお礼申し上げます。ありがとうございました。



中々
翁長さんのお話は、
聞き足りないケロ☆



▲ 展示会の様子 ▲

来館者 1,000 人目♪

オープニングセレモニーの後に、ギャラリートークと、別の日には市民講座も行ったケロ☆

市民講座「古銭収集 70年間のあゆみ」の様子



講師の
翁長良明さん



5/12（日）の市民講座で、翁長さんの古銭収集 70 年間の思いをお話ししてくれたよ！「ものを集める」気持ちを熱くお話しして、2時間があっという間だったよ！



展示ロビー展



リュウキュウツミの成長



宜野湾市に生息している小型のタカの仲間、「リュウキュウツミ」について、写真を通して生態を紹介しました。

今回紹介した「リュウキュウツミ」は、博物館隣の森川公園で生息していたもので、宮城邦治先生（沖縄国際大学名誉教授）と、飯沼慶一先生（学習院大学教授）がここ5年間、観察してきた記録写真や映像等を紹介しました。

この展示ロビー展は、5月18日（土）から6月9日（日）まで開催し、1,051名の観覧がありました。また、6月8日（土）には、市民講座「リュウキュウツミの観察会」も行い、宮城、飯沼、両先生から展示ロビー展の写真や映像を見ながらリュウキュウツミの生態や特徴の説明を受けて、実際に森川公園で観察しました。

リュウキュウツミはハトほどの大きさですが、タカの仲間とあって結構、勇猛です。主なエサとして、ヒヨドリやシロガシラ、スズメなどを食べています。そして子育ての時期には、巣の周辺を飛ぶカラスにも立ち向かって追い払う行動を取ります。

森川公園にはさまざまな生き物がいて、リュウキュウツミが生息していることは、森川の森が広く豊かな自然であることを表しています。この度、写真をロビー展開催とともに、市民講座にご協力いただきました宮城邦治先生、飯沼慶一先生、ありがとうございました！

【観覧者からの感想】 ご協力、ありがとうございました！

- 「都市鳥化ということを知りました。ツミが子育てできる環境がこれからも増えてくるといいなと思います。写真も動画もとてもわかりやすく、面白く学ぶことができました。ありがとうございます。」
- 「リュウキュウツミの生態系など詳しく展示されており、とてもわかりやすくよかったです。身近にいると思うと公園散策も楽しくなりますね。」
- 「ひなの目がくりくりしていて、かわいかった。」
- 「小さいのにカラスにアタックするのがかっこいい。」
- 「リュウキュウツミが小鳥を食べている所を見てグロかったな～と思いました。でもしかたないなと思いました。生きるためだから。」



博物館市民講座にて「リュウキュウツミの観察会」を行いました！

6月8日（土）は、飯沼慶一先生と宮城邦治先生を講師に、リュウキュウツミの生態を学んだ後、森川公園にてツミの観察会を行いました。講座は連日の雨が幸運にも晴れ、ヒナの様子なども見られ、受講者からは、「リュウキュウツミを直接見ることができて自然の豊かさを知ることができた。」といった感想をいただき、また、幅広い年齢層の方々に参加していただくなど、大盛況でした！



市民講座の様子と講座の中で見られたヒナの様子

★講座中にはヒナが飛び立つ練習をする様子が見られました！



今年度の「がちまやあ」は「地誌から見るぎのわん」というテーマのもと、近世(1609年～1879年)、近代(1879年～1945年)、現代(1945年～現在)の宜野湾はどういったところだったのか。全3回に分けて紹介したいと思います。第1回は「地誌から読み解く近世のぎのわん」として、普天満宮の魅力に迫り、近世宜野湾の年中祭祀と、普天間の伝説について読み解いていきます。

普天満宮の魅力

※普天「間」と普天「満」の表記は引用文献に従って記載しております。

～ 長い間親しまれる理由はここにあった ～



普天満宮本殿(1925年頃)
出典 『写真集 ぎのわん』



1903(明治36)年の宜野湾間切
出典 『ぎのわんの地名一内陸部編一』

Q.地誌って、なあに？

地誌とは、ある地域の自然・社会・文化などの特性を研究・記述する地理学の中の一分野です。



普天間は、王府時代に宜野湾間切が新設されるまでの間、中城間切の一部であり、当時「寺普天間村」と称しており、1671(康熙10)年に宜野湾間切に編入されました。宜野湾間切の中心を南北に通る宜野湾街道(中頭街道または普天間街道)は、尚貞王の子・尚純(1660～1706)の命で琉球松を植樹したことから、のちに「宜野湾並松」と呼ばれ、広く知られるようになりました。宜野湾街道は嘉数の前を通過して普天間権現まで通じる街道で、普天間権現参詣の参道として利用されてきました。

普天間権現は普天間に位置し、熊野三所大権現を祀っている琉球八社¹の一つでした。建物の形態は、琉球八社の金武宮と同じく本殿が鍾乳洞の中に建てられている大変珍しい神社です。

1 琉球八社… 琉球王国時代において官社として金武宮を除く七社に神職の役俵、営繕費が首里王府から支給されていた神社のこと。ほか波上宮・沖宮・識名宮・普天満宮・末吉宮・安里八幡宮・天久宮。

その1 琉球国王も年に1回参拝していた！

すごい行列ケロ！



出典 市立博物館常設展示 普天間参詣「参詣行列」

首里王府が編さんした『琉球国由来記』(1713)によると、「巻一 王城之公事 九月 普天満御参詣」には、「尚賢王の御宇、順治元年甲申の九月に始まるなり。」とあり、1644(順治元)年の9月に国王の普天間参詣が始まるとあります。

参拝するに至った理由は、「九月は老陽にして物反く月なりと。然らば則ち厄月なる故、遠近の仏神に詣り、無病息災²を祈る。(『宜野湾市史 第4巻 宜野湾関係資料I』(1985:89))」というもので、9月は陽気が老いて物に生気がなくなる月なので(9月が年最後の凶月にあたるため)、無病息災を祈願するために参詣したとのことです。これは、琉球王国が真言宗を尊信していることを薩摩藩に示すために始めたと考えられています。

参道であった宜野湾並松は、道の両側に松が植えられており、1932年には国の天然記念物に登録されるほどきれいな松並木でした。



2 無病息災… 病気にならず、健康に過ごすこと。

その2 参拝すると幸運が訪れる？！

普天間権現は18世紀初めには、上は国王から下は百姓に至るまで、広く信仰されていました。信仰を始めたきっかけは、『琉球国由来記』の巻十一「^{みつちんしよしえんぎ}密門諸寺縁起」によると、中城間切安谷屋村の夫婦の話がきっかけで噂になり、普天間へ詣でるムラ人たちが群れを成すようになったとのこと。



①むかし中城間切の安谷屋村に夫婦がいましたが、あまりにまずしくて妻が首里に奉公に行きました。

②あるとき、妻が普天満参詣に行ったとき、一人の老人から荷物をあずかりました。



③しかし、いくら待っても老人は戻らず、何日かたったころ、夢のなかに老人が出てきて「荷物をあげよう」といって消えてしまいました。



④荷物をあけると、黄金がでてきました。妻は奉公先から戻り、夫婦はいっしょに暮らせるようになりました。そのうわさをきき、人々の普天満参詣はいっそう盛んになりました。

普天間権現の由来は、ほかに首里桃原村の娘が家を逃げ出し、普天満洞穴に隠れて神様になったというお話もあるケロ…。



出典 市立博物館常設展示 普天満宮にまつわるおはなし「普天満宮のふしぎな老人」

その3 各地から拝みに訪れる信仰の拠り所

『宜野湾市史 第5巻 民俗』〈1985：327〉の「神仏の信仰」によると、「近世以来、中頭地方で仏教の布教センターとしての役割を担ってきたのが、普天満山神宮寺であった。普天間権現は古くから固有信仰と結びつき、十八世紀初めには普天間権現に参詣する習俗は農村に広まっていた。」とあり、普天間権現が信仰する者たちにとって、信仰の拠り所となっていたことがわかります。また、普天間権現は船乗りからも信仰心が篤く、航海安全や旅の祈願として県内外から参拝に訪れていました。

こうして、中頭郡一帯、首里・那覇を中心に家族の健康祈願や^{もんちゅう}門中³の拝み行事として、九月参り（または九月寺参り）とよばれる習俗が定着していきました。

3 門中… 始祖を共通にし、父系血縁によって結びつく集団のこと。

その4 まとめ

現在の普天満宮は、九月参りでの参拝に留まらず、正月の初詣七五三などの人生儀礼、伝統行事の祈願など行事を通して参拝者が訪れるようになり、市のシンボリックな存在として市民に親しまれています。

普天間では、普天満宮の例大祭において字普天間郷友会による獅子舞を奉納したり、大山では綱引き行事の御願で自治会関係者が訪れたりするなど、普天満宮は地域との関わりが深い場所として欠かせない存在となっています。

沖縄空手会館巡回展

沖縄空手の伝播



開催中



今年8月に沖縄コンベンションセンターで、沖縄空手少年少女世界大会が開かれました。開催にあたって世界各国から多くの空手愛好家が訪れました。そこで市立博物館では、この機会に沖縄空手会館（豊見城市豊見城在）が行うパネル展「沖縄空手会館巡回展 沖縄空手の伝播」を開催しています。世界の少年少女に沖縄空手のみならず、開催地の宜野湾の歴史や文化についてもふれています。

巡回展の期間中には関連イベントも行われます。8月14日（水）に、こども博物館教室「沖縄空手を体験しよう！」が開催されました。9月8日（日）市民講座「沖縄空手の伝播」が開かれますので、この機会にぜひ、パネル展のご観覧と教室、講座へのご参加をお待ちしております。

◆テーマ：沖縄空手会館巡回展「沖縄空手の伝播」

◆期間：8月1日（木）～9月9日（月）

◆場所：市立博物館 展示ロビー

◆観覧料：無料

◆主催等：主催・沖縄県 / 共催・宜野湾市教育委員会 / 後援・沖縄県教育委員会 / 運営・（一社）沖縄伝統空手道振興会



沖縄空手の伝播 展示の様子

みんなの進化展 展示の様子



沖縄空手道振興会の仲村さんによるパネル解説の様子。

幅広い年齢層の方々よりご好評をいただいております。



みんなの進化展

一命はつながっている

in 宜野湾～進化・深化・深化～



市立博物館開館25周年記念企画展の第2弾は、沖縄の生き物がやってきました！今回、沖縄県立博物館・美術館と共催し、令和3年度に話題となった「みんなの進化展～命はつながっている～」で使用した資料のほか、宜野湾市にまつわる内容を「深化」させて哺乳類、爬虫類、鳥類の剥製や昆虫標本などを中心に、沖縄の自然を紹介しています。さあ、今年の夏は身の回りの生き物たちのドラマから進化についての考え方を「新化」させてみませんか？

- ◆期間：7/20（土）～9/23（月）
- ◆会場：市立博物館 企画展示室
- ◆観覧料：無料



みんな 見に来てね！



第32回「ぎのわんの文化財図画作品展」作品募集！

夏休み期間中、身近にある文化財や、夏休み期間に見に行ける伝統行事をテーマに絵を描いてみましょう。宜野湾市にお住まいの児童・生徒さんによる沢山のご応募をお待ちしております。

★題材：宜野湾市内の文化財、伝統芸能、歴史的な建物
（例：森の川、普天満宮、獅子舞い、綱引き、）

☆注意☆伝統行事となっていない行事、場所、宜野湾市外の文化財は選考外です。
（例：トロピカルビーチ、はごろも祭り、首里城、勝連城等は対象外です。）

★サイズ：四つ切り画用紙 ★画材：自由

★対象学年：宜野湾市内在住の小学校3～6年生、中学校1～3年生

※分からないことがある時は、市立博物館に連絡をお願いします。



令和5年度 小学校高学年の部
教育長賞 石神さおり（志真志小）

市立博物館長のあいさつ

いつもお世話になっております。宜野湾市立博物館館長の平敷兼哉と申します。

市立博物館は、今年、2024（令和6）年6月1日に開館25周年を迎えました。1999（平成11）年に開館し、これまで、さまざまなテーマで企画展や市民講座、児童向け体験教室などを開催し、子どもから大人まで宜野湾の歴史や文化、自然に楽しみ、ふれながら学ぶことをモットーに取り組んで参りました。開館から25年が経過して当時と異なることは、企画展や講座の開催本数が格段に増えたこと、そして2011（平成23）年度から本格的に取り組み始めた小中学校への出前講座が定着したことです。その甲斐もあって、博物館利用者数も増えています。

これからも地域や学校との連携を図りつつ、市民の皆さまの興味、関心にアンテナを張りながら、ご期待に応えられるよう、先人の生活の知恵と工夫を知る市民参画の場を方針に、博物館づくりに努めてまいりたいと思います。今後とも宜野湾市立博物館を宜しくお願いいたします。

宜野湾市立博物館 館長 平敷 兼哉

新職員の紹介

伊野波 紗希（いの は さき）… 事務担当

はじめまして、今年4月から事務担当として勤務することになりました、伊野波紗希と申します。今年の3月に、沖縄国際大学社会文化学科を卒業しました。まだまだ不慣れなことも多いですが、頑張っていきますのでよろしくお願いします。

照屋 杏奈（てるや あんな）… 市史編集担当

はじめまして。4月から市史編集の担当になりました。以前は県立博物館・美術館で働いていました。市民の皆様から頼られる博物館職員になれるよう、努めていきたいと思っております。よろしくお願いします。



～今年度の職員紹介～

- | | |
|----------|--------|
| 〈館長〉 | 〈係長〉 |
| 平敷 兼哉 | 長濱 健起 |
| 〈主任主事〉 | 〈事務担当〉 |
| 儀間 智美 | 伊野波 紗季 |
| 〈学芸担当〉 | |
| 田中 樹 | 陣野原 知行 |
| 梅村 素子 | 島袋 芽依 |
| 〈市史編集担当〉 | |
| 齊藤 郁子 | 照屋 杏奈 |



博物館友の会 会員募集！

「宜野湾市立博物館友の会」は、博物館が行う活動の支援を通して宜野湾市の歴史や文化を学びながら、会員相互の親睦を深めることを目的とした会です。また、会員向けの企画展の展示解説会や、博物館事業へのサポートを行っています。市内外問わず、どなたでも入会可能です。多くの方のご入会をお待ちしております。

会費 普通会员（一般）：年額 1,000 円

準会員（大学生・小中学生）：年額 500 円

申込先：宜野湾市立博物館



友の会会員への
展示解説会の様子です♪





令和6年度 年間行事カレンダー

祝 25TH

企画展	市民講座
<p>【博物館開館 25 周年記念Ⅰ】</p> <p>お金で世界を感じ展 ～翁長良明氏古銭収集 70 年間のあゆみ～</p> <p>4/20(土) ～ 6/4(日)</p>  <p>終了しました</p>	<p>4/20(土) お金で世界を感じ展ギャラリートーク 講師：翁長 良明 (古美術コレクター)</p> <p>5/12(日) 古銭収集 70 年間のあゆみ 講師：翁長 良明 (古美術コレクター)</p> <p>6/8(土) 野外 リュウキュウツミの観察会 講師：宮城 邦治 (沖縄国際大学 名誉教授) 飯沼 慶一 (学習院大学 教授)</p> <p>終了しました</p>
<p>【慰霊の日 写真パネル展】</p> <p>沖縄戦の中の宜野湾</p> <p>6/12(土) ～ 7/7(日)</p> <p>終了しました</p>	<p>6/ 30(日) 野外 嘉数高台周辺の戦跡めぐり 講師：平敷 兼哉 (市立博物館 館長)</p> <p>終了しました</p>
<p>【博物館開館 25 周年記念企画展Ⅱ】</p> <p>みんなの進化展 一命はつながっている In 宜野湾～進化・深化・新化～</p> <p>7/20(土) ～ 9/23(月)</p> 	<p>7/21(日) 宜野湾の自然 講師：千木良 芳範 (市立博物館 前館長)</p> <p>8/4(日) みんなの進化展 講師：菊川 章 (沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員)</p> <p>8/25(日) 沖縄の民俗習俗～沖縄の呪具～ 講師：高江洲 敦子 (沖縄国際大学 非常勤講師)</p> <p>9/8(日) 沖縄空手の伝播 講師：仲村 顕 (沖縄伝統空手道振興会 研究員)</p> <p>9/15(日) 沖縄の瓦 講師：上原 静 (沖縄国際大学 名誉教授)</p> <p>終了しました</p>
<p>【小・中学校連携展】</p> <p>第 32 回 ぎのわんの文化財図画作品展</p> <p>10/5(土) ～ 10/20(日)</p>	<p>10/20(日) 野外 ぶらっと、博物館めぐり～名護博物館～ 講師：名護博物館職員</p>
<p>【博物館開館 25 周年記念企画展Ⅲ】</p> <p>洞窟のナゾ展</p> <p>11/2(土) ～ 12/22(日)</p> 	<p>11/10(日) 宜野湾市の洞窟～自然・歴史・民俗～ 講師：新垣 義夫 (普天満宮 宮司)</p> <p>12/8(日) 洞窟と人骨 講師：山崎 真治 (沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員)</p> <p>1/19(日) 首里城再建 講師：幸喜 淳 (沖縄美ら島財団 琉球文化財研究室 室長)</p>
<p>【地域との共同企画展】</p> <p>ぎのわんの字展 新天地を求めて ～屋取集落編 其之二～真栄原・佐真下～</p> <p>2/1(土) ～ 3/30(日)</p>	<p>2/9(日) 野外 宜野湾市の古墓めぐり 講師：長濱 健起 (市立博物館 学芸係長)</p> <p>2/16(日) 琉球王国と宜野湾 講師：麻生 伸一 (琉球大学 教授)</p> <p>3/2(日) 真栄原・佐真下の生活史 講師：仲村 元惟 (宜野湾市史編集委員会 元委員長)</p> <p>3/9(日) 野外 めぐてい！イガルーシマ～真栄原・佐真下～ 講師：平敷 兼哉 (市立博物館 館長)</p>

社会科見学や出前講座、研究室の貸し出しなどを随時受け付けております。
お気軽にご連絡ください！

宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL：870-9317 FAX：870-9316

■入館料：無料

■開館時間：午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

■休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始 (文化の日、慰霊の日は開館)

